

## 総括報告書の全体構成(案)

- ・今回は、全体の構成と、各項目の概要・ねらい・執筆方針などを提示します。
- ・詳細な内容については、後日、原稿や図表を送付して個別に意見を伺います。

### 序章 総括報告書作成の目的と方法

#### 目的1 加曽利貝塚の価値を提示する

・加曽利貝塚が学術的な価値が極めて高いことは疑いなく、日本を代表する縄文遺跡であることに異を唱える研究者は少ないであろう。しかし、今回提示する発掘成果によって新たな発見や常識を覆すような成果を提示することは困難であることから、過去の調査成果をまとめ、加曽利貝塚の価値を整理し、今後解明すべき課題を明示することを目指した。

・加曽利貝塚の価値の構成要素として、遺跡が本来もっている普遍的な価値、即ち学術的価値のほか考古学の黎明期以来今日まで付加されてきた価値も極めて重要な意味をもっている。新しい価値が付加されるたびに、加曽利貝塚の存在意義が大きく変化してきた経緯があることから、調査・研究、保存・活用の歴史や、史跡整備と博物館の活動の内容等に多くのページを割いた。

#### 目的2 今後の整備・活用の方向性を検討するための基礎資料とする

なお、加曽利貝塚の価値をどのように守り育て、さらに新たな価値を創造していくか、今後の計画については、ほぼ同時に刊行する保存活用計画にとりまとめた。

以上の目的を果たすために、本書では以下の点に留意し、総括を行った。

- ①加曽利貝塚の価値を構成する要素を整理すること
- ②明治以降、今日までに付加されてきた価値がどのように醸成され、活かされてきたか経緯を示すこと
- ③それらを通じて、将来性も含めた価値を説明すること
- ④未解明の部分や今後取り組むべき課題を明らかにすること

# 第1章 加曾利貝塚の概要

## 第1節 環境と立地

## 第2節 保存・整備以前の調査歴

## 第3節 発掘調査・整理作業の概要

### 1 発掘調査

### 2 整理作業

この章は、通常の報告書に準じた内容となるが、以下の点に留意する。

・遺跡の範囲、史跡指定範囲を正確に示す。試掘等過去の取扱いの成果と、遺構・遺物の分布範囲との関係を示し、同時期の周辺遺跡と関係も明らかにする。

・第3節は発掘調査と整理作業の複雑な経緯を簡潔に示して、発掘成果を読み解くためのインデックスとする。第1項には参加者名簿を掲載して、全国の多くの研究者や学生が関わったことを伝える。第2項では複数の調査団による整理作業から、市に引き継がれた経緯を示す。

※要検討事項 遺跡の範囲、周辺の遺跡 等を記載する部分を追加する必要あり

# 第2章 加曾利貝塚の歩み

## 第1節 調査・研究の歴史

- 1 日本考古学の黎明期 遺跡の周知、初期の発掘の経緯
- 2 近代考古学研究の出発点
- 3 保存運動以前の発掘と貝塚研究
- 4 保存運動・史跡整備と貝塚研究
- 5 近年の動向

## 第2節 保存・活用の歴史

- 1 文化財保護の歴史と加曾利貝塚
- 2 第1次・第2次保存運動の動向
- 3 時代背景と保存運動がもたらしたもの

## 第3節 史跡整備と博物館の活動

### 1 史跡整備のあゆみ

- ・北貝塚の整備と博物館の開設
- ・千葉市史跡整備基本計画の策定と南貝塚の整備
- ・(仮称)「縄文の森」基本計画の策定
- ・史跡加曽利貝塚保存活用計画の策定と将来の展望

※史跡指定については時系列に沿って記載し、別途一覧表を掲載する

### 2 博物館活動のあゆみ

- ・調査研究活動
- ・教育普及活動
- ・展示活動
- ・博物館を拠点とした市民活動 博物館友の会、土器づくり同好会、ガイドの会
- ・学校教育との連携

## 第3章 各調査と遺構・土器

### 第1節 層序・遺構と土器の帰属

### 第2節 北貝塚とその周辺の調査

- 1 北貝塚第1調査区第1地点・第1住居址群調査区
- 2 北貝塚第1調査区第2地点
- 3 北貝塚第2住居址群調査区
- 4 北貝塚貝層堆積群調査区・第4調査区第Ⅱトレンチ(a)
- 5 北貝塚第4調査区Ⅰトレンチ・Ⅱトレンチ(b)

### 第3節 南貝塚とその周辺の調査

- 1 南貝塚Ⅰトレンチ～Ⅵトレンチ、史跡整備第2調査区
- 2 南貝塚Ⅺ区
- 3 試掘・物理探査a・b・cトレンチ

### 第4節 東傾斜面北部の調査

- 1 東傾斜面第1次調査
- 2 東傾斜面第6次調査

## 第5節 東傾斜面東部・南部と南外縁部の調査

- 1 東傾斜面2次～5次調査区、試掘・物理探査d～j
- 2 史跡整備第1調査区

## 第4章 遺物

### 第1節 土器の分類と概要

### 第2節 顔料・圧痕のついた土器

- 1 赤彩土器
- 2 土器底部の網代圧痕
- 3 植物圧痕

### 第3節 土製品

- 1 土偶
- 2 土版
- 3 耳飾
- 4 垂飾
- 5 ミニチュア土器
- 6 有溝土錘
- 7 有孔土製円板
- 8 腕輪
- 9 他の土製品
- 10 土器片錘
- 11 土器片円板

### 第4節 石器・石製品

- 1 器種組成と地区別の傾向
- 2 礫・軽石類
- 3 磨製石斧
- 4 打製石斧
- 5 磨石類
- 6 砥石
- 7 石皿・台石
- 8 石鏃
- 9 他の石器
- 10 軽石製品
- 11 玉類
- 12 石棒
- 13 他の石製品
- 14 剥片類
- 15 石器・石製品の破損・転用
- 16 石器組成と石材の傾向

### 第5節 骨角歯牙貝製品

- 1 骨角歯牙製品
- 2 貝刃
- 3 ヘラ状貝製品
- 4 他の貝製品

### 第6節 その他の遺物

- 1 海岸採集品
- 2 糞石
- 3 塊状灰
- 4 灰サンプル

### 第7節 外部保管遺物

## 第5章 動植物遺体と埋葬

### 第1節 動植物遺体の概要と分析方法

・現地採取料／サンプル抽出資料があること、サンプルの水洗・抽出方法など、動植物全体にかかる部分を記載する。

## 第2節 貝サンプルの分析

・資料と分析成果の概要、分析方法等をここであつかう。個々の分析成果を統合し簡単にとりまとめる。

## 第3節 埋葬人骨と埋葬犬

- ・人骨については全体的な成果を第6章第4節に掲載する。この節では、出土状況と埋葬状態等を記載。
- ・調査の所見と図・写真等考古学的な知見・資料を提示する。また、東大調査対象以外の資料を補完する。
- ・埋葬動物については、第6章第3節5のなかに分析成果を掲載する。ここでは、出土状況の図や所見と、埋葬犬の全容をとりまとめる。

# 第6章 分析の成果

## 第1節 石器の産地分析

・石器・石製品全点の石材鑑定を実施。成果を受け取った。石器・石製品の事実記載にも反映した。発掘成果のまとめについて、柴田氏に事実記載の内容を渡して相談する。

## 第2節 植物遺体

## 第3節 動物遺体

### 1 貝類 2 微小貝類 3 魚類・海生哺乳類 4 鳥類 5 陸生哺乳類

## 第4節 人骨

・1990年代以降、東京大学総合研究博物館によって継続的な整理が行われており、2013年度から2015年度にかけて行われた全容調査では、文献記載個体の所在と現状、現存する標本の来歴や構成に関する基礎情報などが体系的に整理された。また、2015年3月までに動物骨のなかから見つかったものについても追加の記載が行われた。経緯等に関する詳細な文章、一覧、個体別のシートなど原稿を受け取り済み。

本来は発掘記録のとりまとめを先に行って、その情報を加味した原稿をいただくのが筋だが、記録類の整理が進んでいなかったため断念した。順番は逆になるが、本報告の第5章第3節に提示して、今後の課題としたい。

## 第5節 同位体分析

・第3節・第4節・第5節については、当初は加曽利貝塚の価値を改めて提示する上で重要な部分と考え、できるだけ良い成果を提示してほしいと依頼していたが、方針の変更を伝えた。

・試料の年代や位置情報の不足など難しい点が多いことや、元々残された期間が短いことから、無理をせずにこれまでに実施した部分を取りまとめることとし、分析は今後引き続き行っていくこととなった。

・分析成果は遅いものでも7月中には受け取ってとりまとめに着手する予定。

## 第7章 発掘成果のまとめ

(第8章総括を簡潔にするため、一部、周辺地域の発掘・研究成果を参照しつつ、発掘成果をまとめる。)

### 第1節 遺跡の形成過程と集落・貝層の形成期間

#### 1 北貝塚・南貝塚・東傾斜面・縁辺部

それぞれの遺構分布、時期的な傾向を示す〈未了〉。

#### 2 集落の形成から消滅の過程

旧石器時代、縄文草創期、早期後葉から前期にも、活動の痕跡が残されているが、大規模集落は縄文中期中ごろに突然のように形成された。大きく以下の3期に分けることができる。

**1期(中期中ごろ)** 8の字に接触した大規模貝層のうち、先に形成が始まるのは中期を主体とする北貝塚である。東京湾東岸の中期大型貝塚は、所謂「環状集落」の形態をとる。中央に遺構・遺物が乏しい「広場」と呼ばれる範囲を取り巻くように貯蔵穴群(やや内側)－住居群(やや外側)と帯状の遺構帯、さらに外側に貝層を形成する。北貝塚も同様であったことは発掘成果からほぼ間違いない。ただし、この時期の大規模貝層は斜面貝層が中心であり、北貝塚のように平坦部に貝層が高く盛り上がる事例は他に知られていない。

**2期(中期後葉～後期初頭)** 東京湾東岸で大型貝塚・環状集落が消滅したこの時期には、西外縁部や東傾斜面の広域に住居跡群が分散するので、検出数は少ないが、遺跡全体としてはかなり多くの遺構数が見込まれる。

**3期(後期前葉～晩期前葉)** 後期に形成が始まるのは南貝塚である。東京湾東岸に再び大型貝塚が現れ、貝層の形成が活発となるのは後期前葉であり、おびただしい量の貝類の利用と貝殻の廃棄によって「馬蹄形貝塚」と呼ばれるタイプの集落が広域に展開する。後期前葉の住居跡は台地縁辺部付近に集中し、後期中葉には検出数が減少する傾向がある。ただし、当遺跡では、後期中葉にも貝層の形成が活発であり、貝層中には焚火跡や平坦面などの生活の痕跡を数多く残している。

遺構の分布状態は以下の変遷をたどる。

1a 期(阿玉台・勝坂後半) 住居跡と土坑が現れる。北貝塚縁辺部のやや内側に集中するほか、南貝塚や東傾斜面にも散在する。

1b 期(加曾利 E I) ほぼ北貝塚のみに遺構が集中する。

1c 期(加曾利 E II) 北貝塚に住居・貯蔵穴が帯状に分布。東傾斜面にも別の遺構群が現れる。

2期(加曾利 E III～称名寺) 西外縁部・南貝塚、東傾斜面にかけて散在。北貝塚にはみられなくなる。

3a 期(堀之内) 南貝塚の貝層範囲付近にやや集中。北貝塚にも住居と土坑が部分的にあり、貝層も形成する。

3b 期(加曾利 B) 南貝塚の貝層の内寄りに集中。住居は少なくなるが、加曾利3b式期頃に貝層形成のピークを迎える。貝層中には焚火の跡や平坦面等の生活痕跡が多い。大型建物跡は中心から離れた斜面地にあり、土坑も存在する。北貝塚にも住居と埋葬を確認できる。

3c 期(曾谷～安行 3c):貝層形成は下火になり、該期前半で形成されなくなる。後半は貝層内側の窪地に遺物包含層を形成する。

中期大型貝塚の形成～中期後葉の消滅、後期大型貝塚の形成～晩期中葉の消滅と、大きな社会の変革期を乗り越えて約 2,000 年にわたる居住が認められる。その間の生産・居住・墓制の大きな変化を分析可能。1 遺跡でこれだけの資料が揃う例はほかに知られていない。

### 3 各時期の集落群構造と加曾利貝塚

中期中ごろ、中期後葉～後期初頭、後期の都川流域の遺跡分布図を掲出する。第1章掲出の周辺の遺跡群の図と併せ、各時期の遺跡分布の特徴、加曾利貝塚と同時に存在した集落との関係を説明する<未了>。

## 第2節 集落を構成する遺構の特徴

### 1 貝層

- ・北貝塚の貝層、南貝塚の貝層について、時期、堆積の傾向を示す<未了>
- ・北貝塚は、中期大型貝塚のなかで、堤状に貝層が盛り上がる稀有な事例。後期にも貝層の形成が継続する。
- ・後期中葉にも活発に貝層を形成し、貝層中に焚火跡や平坦面などの生活の痕跡を数多く残すなど、後期中葉から晩期前半までの生産・居住様式を検討しうる情報が豊富である。
- ・貝層の規模は、東京湾東岸の大型貝塚のなかでも最大級であり、保存状態もきわめて良好である。貝層の形成が早かったため、包含される動物遺体、骨角歯牙貝製品、赤彩土器等の痛みが少なく、良好な資料が多数残されている。

### 2 住居跡・土坑

- ・北貝塚・南貝塚の貝層の内側から、その外側の台地上の広範囲にわたって住居跡が分布する。
- ・北貝塚の貝層の内側には、小竪穴群(群集貯蔵穴)が形成されている。貝層の一角に、後期の小竪穴の集中もみられる。
- ・大型建物跡は、県内を中心に類例が増えて比較研究の対象となっているが、当遺跡の事例はその初見であり、研究の端緒となった。複数の炉をもち、石棒や異形台付土器が床面付近から出土していることから、合同祭祀の論議や、あるいは縄文後・晩期社会のイメージ形成にさえ影響を与えてきた。今回、出土土器がほぼ単一型式にまとまっていることを確認でき、建物の性格や祭祀の実体を検討する上できわめて重要な資料であることを改めて確認することができた。出土土器には、ネズミの咬耗によるとみられる傷が高い頻度で付いていた。

### 3 埋葬

発掘面積からみると人骨の出土がきわめて多い。出土数は埋葬遺体 50 体、散乱骨を含めると 200 体近くと、県内では下太田貝塚(187 体)、姥山貝塚(147 体)に並ぶ数である。加曾利貝塚の人骨資料は、東京大学総合

研究博物館に所蔵された全国の縄文人骨資料のなかでも、とくに重要なものとして位置づけられてきた。信仰に関わる道具もかなり出土していることから、特殊遺物がとくに多いと強調されることがあったが、県内の後・晩期集落の例と比較して、土偶・土版や石棒等の数が多いとは言えない。

#### 4 南貝塚の中央窪地と道路跡

南貝塚での中央窪地発見は千葉市草刈場貝塚に次ぐものであり、松戸市貝の花貝塚と同年である。晩期包含層の形成は注目されたはずだが、詳細は公表されなかった。

道路跡は南貝塚開口部で確認されたが、報告書には記載されなかった。鹿児島県岩崎遺跡での発見のほうが古いが、報告書発行数が少なく学会で注目されることがなかったので、もし加曾利貝塚の事例が報告されていれば大きな発見として受け止められたはずである。

### 第3節 出土遺物の特徴

#### 1 概要

保存に関わる調査以降の発掘計 13,114 m<sup>2</sup>(全体の約6%、貝層の約7%)から出土した遺物約 1,600 箱の内訳は、土器 1500、石器 40、土・石・骨製品等 30、骨 30 であった。

#### 2 土器

集落形成期にあたる中期前葉・阿玉台式から晩期前半の安行3c式・姥山式に至る各型式が、途切れなく多量に出土している。各時期を通じて異系統土器が少なく、在地系の土器に変容や混交のあるもの、粗雑な印象を与えるものが多いことを特徴として挙げることができる。

#### 3 生産用具の組成

土器以外の出土遺物は、石器・石製品 1761 点、土製品 1329 点、貝製品 693 点、骨角歯牙製品 349 点がある。中期中葉主体の北貝塚では土器片錘と貝刃が多く、中期中葉から後葉主体の東傾斜面では土器片錘と土器片円板が多い。後期主体(後期前葉から中葉主体。晩期前半まであり)の南貝塚では土偶、土器片円板、土製耳飾、貝輪、骨角製品(刺突具・髪針・垂飾等)が多い。これまでに知られている当地域の特徴に調和的である。今後の発掘によって、時期的な変遷や、中期大型貝塚と後期大型貝塚に引き継がれるもの、途切れるものなどを検討しうるであろう。このような分析を1遺跡でなしうる点が当遺跡の特質である。

そのほかの所見を以下に挙げる。

- ・発掘の規模からみて、磨石類、石皿・台石、砥石、軽石製品、貝刃、骨角製ヘラがととも多い。石鏃・玉類等小さな遺物は少ない。回収率が低く、本来の点数を表していない可能性が高い。
- ・石皿・台石と磨製石斧は破損率がきわめて高く、再加工・再利用率も高い。徹底した利用は定住度が高いことによる可能性がある。
- ・大膳野南貝塚で注目された塊状の灰(漆喰状)がかなり見つかった。平坦で汚れた面をもつものは住居床面に敷かれていた可能性がある。



- ・貝サンプルから多くの炭化種子を検出している。クリとクルミが多いが、アズキ、トチ、クヌギ、コナラ、ヒシ、鱗茎類などの当地域では出土例が少ない、貴重なものが含まれる。貝層内に焚火跡などが多いことが関係している可能性が高い。

- ・土器片錘は 960 点出土している。中期主体の北貝塚に多く、後期主体の南貝塚で少ないのは下総台地全体に共通する傾向である。貝層から検出した魚骨の分析成果をみると、中期には底魚が、後期には浮魚が多い傾向が認められる。中期には錘のついた網を使っていたため、底魚を逃さず捉えられた可能性がある。

- ・貝刃は 420 点出土している。県内で多数出土した例には、市原市西広貝塚の 1170 点、緑区有吉北貝塚の 459 点があるが、調査面積を考慮すれば、これらの事例を上回ることは確実である。貝刃の用途としては、鱗取り説と包丁説が知られているが、刃部には縦方向に使ったことを示す傷がつくものがとても多く、横方向につくものはわずかであることから、鱗取り説が有力とした。ただし、カガミガイ製の貝刃は大半が左殻を使っており、ナイフのように使った可能性を指摘した。

#### 4 石器と骨角歯牙貝製品にみる素材の利用

骨や角の加工具が多い。使用の痕跡や、入念に磨き上げた丁寧な仕事ぶり等を観察できる。これは、貝層によって良好に保存されたことによる。砥石、骨角貝製のヘラ、軽石製品など、成形や研磨に使われた道具が目立つ。動物由来の素材や、石材の有効利用が徹底しており、中期から後期まで継続性が認められる。資源を無駄なく使う知恵や工夫は、定住的な生活によって発達したと考えられる。

#### 5 資源利用の特徴

- ・イボキサゴ漁とハマグリ漁が中心であることは同様だが、村田川流域ほど安定しておらず、ハマグリは幼貝にまで利用が及んでいる。ハマグリが少なくなるとかなり多くの種を利用しているらしい。村田川に比べて、集落間の競合が多かった都川の特徴の可能性もある。

- ・分厚い破碎キサゴ層を形成する。利用の意味は未解明だが、小さな個体に偏ることをはじめて数値化できた。その解明と、イボキサゴの資源利用の両面から注目される。

- ・森と海から得られる資源を計画的に利用できる安定した環境が、多くの人が集まるきっかけとなり、人口を長期間維持し得たものと推定される。

- ・炭化植物の出土が多い。わずかに採取・保管された炭化物から比較的多くの種子が検出されている。クルミ、クリが多く、アズキ、トチ、クヌギ、コナラ、ムクロジ、ヒシ、ニワトコなどが見られる。今後のサンプリングと分析による植物質食材の利用の解明に期待がかかる。

- ・東傾斜面下の谷底のボーリング調査によって、縄文時代の層が良好に遺存していると推定される。

- ・シカの下顎骨の先端が意識的に折り取られたものが南貝塚で5点出土している。近年、大網白里町養安寺遺跡で同様の先端部分が70点以上出土しており、顎の本体はヘラ状の道具(皮なめし具の可能性が指摘されており、県内の数遺跡に類例がある)として使われている。加曽利貝塚の点数は今のところ2番目に多い。先端部破片は除去された部分なので、素材が持ち込まれ、加工が行われた証拠といえる。

- ・8体以上の埋葬犬が見つまっている。右後脚の脛骨と腓骨が骨折後に癒着して治癒した事例は、縄文人とイヌの関係を伝える良好な資料である。

#### 第4節 中・後期貝塚群内部における資源利用の特徴

・大型貝塚形成期の食は、ドングリやイモ類、イノシシ・シカを中心とした森林資源、小魚・イボキサゴ・ハマグリを中心とした海産資源など、様々な食材をバランスよく活かしていたものであり、巨大な貝層のイメージほど生業や食事は魚貝類に偏っていなかったとみられる。そのこは、生産用具の組成と人骨の同位体分析による食性の復元研究によって裏付けられている。

・東京湾東岸における生産・居住様式の特徴は以下のものであり、加曽利貝塚においても、概ね同様であったことがある程度推定できる。

中期中葉(中期大型貝塚形成期):集中居住。大規模な貝層を形成。齊一的な生産

中期後葉～後期初頭(大型貝塚消滅期):分散居住。小規模な貝層を形成。生産活動は不明な点が多い。

後期前葉～晩期前半(後晩期大型貝塚形成期):集中居住。一水系のなかで異なる生産

・二つの大型貝塚形成期の生産様式には、継続された部分と、変更が加えられた部分がみられる。後晩期の超広域にわたるネットワーク社会形成に至る変化を加曽利貝塚の今後の調査・研究によって解明できる可能性がある

・都川・村田川水系の後期貝塚群は、資源利用に関わる比較分析データが比較的豊富である。海岸からある程度の範囲内にある集落では海産魚が選択的に利用されるが、海岸から遠ざかるにつれて利用頻度や魚種の多様性が低くなり、もっとも遠い菅田高田貝塚では淡水魚主体であった。これに対して、海産貝類は菅田高田貝塚のような内陸部の集落であっても大量に運び込まれている。シカ・イノシシは各集落で活発に行われたと推定されるが、一般的な生息密度を考慮すれば、各集落が狭い猟場を有していたと見るよりは、共同利用地としての猟場をもつ形や、複数集落の成員が合同して狩猟グループを構成するなどの協業形態を想定する方が、無理がないと思われる。貝殻成長線分析によるハマグリ採取季節推定の結果は、いずれも周年に渡るものの、矢作貝塚は春中心型、加曽利南は周年型、木戸作貝塚は秋・冬中心型と、季節分布は大きく異なっていた<別表参照=ここでは省略>。

各集落の分析から、生業がもっとも活発になる季節は、沿岸部に立地しマダイ漁を活発に行っていた矢作貝塚は、マダイの回遊する春から夏、堅果類の加工具が多く魚類・哺乳類遺体の少ない木戸作貝塚は堅果類の採集が行われる秋と推定される。加曽利南貝塚では動物遺体や生産用具の組成から漁撈・狩猟・採集をバランスよく組み合わせた構成から周年と推定される。これは、ハマグリ採取季節とよく一致している。このようなあり方の解釈として、集落ネットワークに所属するメンバーの一部が、季節ごとの生業の状況に応じて集落間を移動する柔軟な生産・居住システムを想定する意見もある(樋泉)。未整理・未報告資料の追加や、分析方法の追加によって、縄文時代の集落や社会の構造を分析するための情報がこれほど豊富な地域は、全国のなかでもほかにないであろう。

都川・村田川水系の後期貝塚群における資源利用状況の比較

	矢作貝塚	台門貝塚	加曾利南貝塚	多部田貝塚	菅田高田貝塚	木戸作貝塚	大膳野南貝塚
分析試料の時期	後期前葉	後期前葉	後期前葉～中葉	後期中葉	後期中葉	後期前葉	後期前葉
遺跡の位置	都川河口	都川下流支谷奥	都川中流支谷奥	都川中流支谷奥	都川谷奥	村田川下流支谷奥	村田川下流支谷奥
海岸からの直線距離	約1km	約2km	約4km	約6km	約6km	約2km	約4km
谷沿い距離	約1km	約2km	約6.5km	約7.5km	約12km	約2.5km	約5km
貝層の規模	中	大	大	大	中	中	中
主要動物質食料の構成	貝＋海産魚＋陸獣(魚多)	貝＋海産魚(＋陸獣)	貝＋海産魚＋陸獣	貝＋海産魚＋陸獣(大形魚稀)	貝＋陸獣＋淡水魚	貝＋海産魚＋陸獣(陸獣、大型魚少)	貝＋海産魚＋陸獣(陸獣、大型魚少)
貝種組成	イボキサゴ、ハマグリ主体	イボキサゴ、ハマグリ主体	イボキサゴ、ハマグリ大半、アサリ多	イボキサゴ、ハマグリ大半	イボキサゴ、ハマグリ大半	イボキサゴ、ハマグリ大半	イボキサゴ、ハマグリ大半
汽水産	多い	ふつう	ふつう	なし	ごく稀	少	ごく稀
ハマグリ採取季節	周年(春中心)	－	周年(夏と冬やや多い)	－	周年(夏中心?)	周年(秋～冬中心)	周年(秋～冬中心)
魚種組成	海産大型	クロダイ、マダイ主体。スズキ多	クロダイ大半	稀	稀	クロダイ主体、スズキ・マダイ多	クロダイ主体、スズキ・マダイ多
海産小型	多様な種が混在	－	多様な種が混在	少	少	多様な種が混在	多様な種が混在
淡水産	稀	－	稀?	稀	フナ主体	稀	稀
鳥獣類組成	陸獣類	シカ・イノシシ主体(シカ多)	シカ・イノシシ主体	シカ・イノシシ主体	シカ・イノシシ主体(シカ多)	シカ・イノシシ主体(シカ多)	シカ・イノシシ主体(シカ多)
鳥類	カモ類主体、キジ多	稀	キジ主体、カモ類多(加工品)	稀	?	?	?
ウミガメ	あり	なし	(加工品)	なし	なし	(加工品)	(加工品)
生産用具	狩猟具	石鏃	石鏃(少)	石鏃(少)	石鏃(少)	なし	なし
漁撈具	釣針・刺突具多、錘	－	刺突具、錘	錘(稀)	刺突具、錘	刺突具、錘(稀)	刺突具、錘(稀)
植物採集・加工具	打製石斧、磨石、石皿	－	打製石斧、磨石、石皿	打製石斧、磨石、石皿	打製石斧、磨石、石皿	打製石斧、磨石、石皿	打製石斧、磨石、石皿
生産用具組成の特徴	漁撈具(刺突具・釣針)多	(詳細不明)	植物採集・加工具	植物採集・加工具	植物採集・加工具	植物採集・加工具	植物採集・加工具

## 第5節 今後の課題

前節までに、当遺跡のもつ学術的な価値を物語る発掘成果を挙げたが、今回の整理作業を通じて新たに見えてきたものは少ない。すでに見えていたはずの加曾利貝塚のもつ価値を改めて言葉にし、それを裏付ける資料を提示することが今回の作業の眼目となった。加曾利貝塚の価値がゆるぎないものであることは、間違いないところだが、本来の価値を検証し言葉にする作業は道半ばである。以下に、今後の課題を簡単にとりまとめた。以下の諸点に留意して、明確な方針・計画のもとに学術発掘を行うことを検討していきたい。

### 1 過去の調査地点の明確化

調査年次が古く、また記録の不足や不整合により、詳細な調査区の位置はすべて不明確である。今日的な測量精度による調査区の確認が必要である。たとえば以下がある。

- ・E地点、B地点をはじめとした戦前までに行われた調査地点
- ・北貝塚第3調査区Cトレンチ、第4調査区IIトレンチ
- ・南貝塚の各トレンチ。とくに交差点

### 2 集落構造の解明

集落の構造を示す貝層・住居跡・土坑等の遺構の分布範囲や時期的な変化などは、未だ不明な点が多い。今後の調査によって解明すべきことをいくつか挙げておく。

- ・各時期の集落構造と範囲
- ・北貝塚・南貝塚の貝層の形成過程
- ・中央窪地の形成過程と年代
- ・東傾斜面では、斜面の最下部まで遺構の分布が広がっており、生活の痕跡が低湿地に連続していることはほぼ間違いない。過去のボーリング調査によって、縄文時代の層が残っていることも確実であるので、今後の調査によって、古環境復原や低地の利用の解明が期待される。

### 3 時期や堆積状況の明確化

・旧報告では、貝層や出土遺物にできる限り年代を与える方針であった。大半は発掘中の所見によるものであり、報告書に根拠が示されたものはわずかである。整理作業時の詳細な検討によって調査時点の所見が覆ることは普通であるので、今日的には報告書で証拠を示し得ない情報は研究に耐えない。今回の記録類と出土資料の見直しによって年代を与えられる遺構・遺物はごく乏しいものとなった。詳細な時期を加味した研究は、今後の発掘調査と整理作業が必要である。また、出土状況の詳細な観察と各種分析によって、未解明の部分をひとつひとつ検討・検証していく必要がある。

#### 4 生産活動や社会・経済の解明

・石材の交流は、加曾利貝塚博物館開館当初からの研究テーマの一つであった。下総台地には存在しない各種の石材が多数持ち込まれており、そのことが、干貝と石材を交換した証拠として、大型貝塚＝干貝加工場説を裏付けるものとされたからである。その後、県内では数多くの縄文集落の発掘が進むなかで、大型貝塚と他の集落の差は少なく、また、中期の多量の黒曜石は神津島という海側からもたらされたものであるなど、“海と山の交換”といった単純な図式は成り立たないことが明らかになっている。さらに、中期大型貝塚群に隣接して、貝層を形成しない集落が群を形成していることも判明している。海産物の流通を考えるときには、遠隔地よりもこれらの集落群をまず想定すべきである。石器石材の研究は、こうした点から再度地域内の集落間の比較検討が必要である。

・千葉市では未整理の貝サンプルを数多く保管しており、今後の整理作業によって動物資源の利用の比較分析・研究に期待が寄せられる。